

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2391500085		
法人名	ケアサービス株式会社		
事業所名	グループホームかなれ		
所在地	名古屋市名東区猪子石原三丁目2713番地		
自己評価作成日	H26年1月5日	評価結果市町村受理日	平成26年6月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	名古屋市東区百人町26 スクエア百人町1F		
訪問調査日	平成26年3月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・施設内の清潔 利用者様・職員のウイルス・衛生対策(手洗い・消毒・除菌等)には力を入れている。またご利用者様がその人らしく、穏やかに生活できるように支援しています</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>利用者の重度化に伴い外出も難しくなっている中で、毎日職員と利用者が1対1で散歩に出かける等、認知症であってもその人がその人らしく安心して穏やかに暮らせるように、出来ないことを支えながら利用者に向き合って日々のケアを行っている。そうした積み重ねにより地域の住民からは、差し入れがあったり、雪かきを手伝ってもらったり、ボランティアの申し出があったりという交流の形になって表れて来ている。家族からは現状維持を望む声が多数であるが、管理者が交代した現在、改善点の一つずつクリアにしていくと同時に、職員・近隣の住民とコミュニケーションをとりながら、先を見据えて少しでもつながりを広げていきたいと意欲的に取り組んでいる。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をわかっていない人や忘れてしまっている人がいる	法人の掲げる9項目の理念を更衣室に貼ることで職員の意識付けを図り、利用者一人ひとりがその人らしく穏やかに過ごせるように日々の業務に当たっている。	法人の目指すものをベースに、分かり易いホーム独自の理念の打ち出しを望みたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	外出や散歩にいった時に、会うと挨拶を積極的に行っている	町内会に加入し、地域の廃品回収に協力したり、散歩の際に近隣の人々と挨拶や話をして交流に努めている。また、中学生の職場体験学習も受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩を通じて、交流を図っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域・ご家族様からのご意見を参考に実践できるように取り組んでいる	定期的開催され、ホームの活動報告をすると共に議題を設けての質疑応答や様々な事例検討を行う場として活用している。また、それらの内容は職員間で参考にし、日々の業務に反映させるよう努めている。	「認知症サポーター養成講座」の依頼等を契機に、新しい情報収集の為にいきいき支援センターの職員の参加が得られるよう働きかけることを望みたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	十分にできていない	区役所へは更新の手続きで出向き、いきいき支援センターとは定期的に空き情報の確認・報告をしている。また、市主催の研修や事業所連絡会・認知症研究会へも参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	車の通りが多いので、スピードを出し走る車が多いので、危険な為施錠している。身体拘束は絶対しないよう取り組んでいる	マニュアルもあり、身体拘束をしないケアについて職員間での周知徹底を図っている。スピーチロック等は職員同士で声を掛け合ったり、管理者がその場で注意したりしている。また、以前のエスケープの事例を踏まえ利用者の安全確保の為施錠をしているが、家族の了承を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士虐待はないか見過ごされていないか話し防止に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会はないが、職員同士話し合いはしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、ご利用者様、ご家族様が安心して頂けるように管理者が中心に行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員同士で話しあい、反映させている	家族の面会時やケアプラン作成時に意見・要望を聞くようにしている。出された意見・要望は職員間で共有し、日々のケアに反映させるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングなどで話している	職員からは日頃より業務の中で様々な意見・提案が出されており、管理者はそれらが出された場合、早目に対応するよう心掛けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めていると思う		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	最近、機会が少ない		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修に行った時に他の施設の方と交流している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にご自宅へ訪問し、事前に面談させていただき、お聴きしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からもお聴きし、関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族様からお話しをお聴きし、職員で話しあい、対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できることは、ご自分でやって頂き、見守りしている。レクリエーションや散歩に参加していただく中で関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会にこられた時に、ゆっくりすごして頂けるよう環境作りしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	十分にできていない	孫や曾孫が会いに来たり、家族の協力で外出・外食する利用者もいる。年賀状や暑中見舞いのやりとりをする等、その人の馴染みの関係が途切れないように支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室にこもっている方に声かけをし、リビングへ来て頂いたりすることで利用者様同士関わり合える様にしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	問い合わせがあれば対応している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ミーティングや申し送りなどで話し合っている	職員は利用者同士会話している中で、ヒントを貰ったり、利用者がテレビを観ている時にそっと聞いて、思いや要望を把握するようにしている。意思疎通が困難な人には家族から情報をもらったり、日頃の様子から察するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様に書いていただいた情報を見たり、ご本人様から話をお聴きし、把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日申し送りにて把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンスやミーティングを行い、作成している	介護計画は3ヶ月毎に、個別にケアカンファレンスを行い見直し評価している。それに基づいて家族や職員と話し合い、介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に記入し、申し送りやミーティングで情報を共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じ、支援やサービスに取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の資源は十分に把握できていない。本人様ができることは自身でやって頂きながら、力が発揮できるようにしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隔週かかりつけ医の受診があり、他の医療機関を受ける時も協力していただいている	入居前のかかりつけ医を利用している人が2名、その他はホームの協力医を利用している。どちらも急な対応も受けられる体制となっており安心である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月曜日に訪問看護が実施され、相談や状況報告をしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族様、医療機関と情報交換し、話し合いなどを行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様、医療機関と話しあい、事業所のできることを説明し、支援に取り組んでいる。	入居時に家族には 食事が摂取できなくなったり、医療行為が必要になった場合は他の施設に移設してもらうよう伝えている。それ以外は、ホームで出来る最善策を家族、医師、職員と話し合い支援に努めている。	職員は急変時などの対応や看取りについて、研修は行っていないので、今後は勉強会や研修など受講して知識を身に付けて、急変時の対応がスムーズに行われるようになることが望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	上級救命の講習に参加した職員が数名いる		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防点検・訓練を行っている	避難訓練は2月と8月に行い、初期消火訓練を始め、通報訓練、避難経路の確認など行っている。備蓄品として、水やゼリー状の栄養補助食品を準備している。	全職員が避難訓練に参加出来るように回数を増やして、夜間想定や地域の人に参加を呼びかけるなど、工夫されることが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄介助時などはプライバシーには十分配慮している	利用者の人格を尊重して、居室に入る時など声をかけたり、日頃から言葉遣いにも気をつけている。書類など事務所に保管して、個人情報保護に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	傾聴し、思いや希望を話して頂けるよう支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合で動いてしまっている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧品などでご自分で自由に身だしなみやおしゃれができるようになっている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々に合った食事形態にし、提供している。食器拭きなどご利用者様にさせていただいている	献立は利用者の嗜好を考えて1週間毎に作っており、食材は配達してもらっている。利用者は盛り付けや後片付けなど、力量に応じて手伝ったり、白玉ぜんざい、おはぎなどおやつ作りも楽しみの一つである。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合った量を提供している。水分量など記入し把握に努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、できるだけ自身で磨いていただきながら、足りないところは介助にて対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄時間等を記録し、把握しながら、介助を行っている	排泄記録を基にして、トイレに誘導しており、自立に向けた支援をしている。夜間はふらつきが見られる人が多いため、2時間置きにパットを確認して交換している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄日、量、形態などを記録し、必要であれば、医療機関に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日や時間はこちらが決めてしまっている。ここに合った入浴方法にしている	利用者は足が上がらない人が増え、浴槽が跨げなくなってきているので、1階にある機械浴に変更する人が増えて、2人体制で入浴介助をしているが、週2回は入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	必要な方は臥床していただき休息していただいている。十分に入眠できていない方については医療機関に相談している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルの中に処方箋が入っているので、読んで把握するようにしている。変化があれば、医療機関に連絡している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩に行ったり、たまに喫茶店に行ったりしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	希望にそっては出かけられないが、ご家族様との外出時には、気持ちよく外出できるよう支援している	天気の良い日は午後から近隣を散歩したり、ホームの屋上で寛ぐ時もある。また、初もうでや花見などいつもと違う場所に出かけたり、家族の協力を得て買い物や外食に出かける人もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持されているかたはいないが、ご家族様よりお小遣いとしてお預かりしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はされていないが、かかってきたら、でていただいたり、手紙が届いたらお渡ししている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングに季節的なものを置いている。エアコンや床暖房などは温度調節し、快適に過ごしていただけるようにしている	リビングには折り紙で作ったお雛様が飾っており、季節を感じることができる。廊下にはイスが置いてあり、利用者が寛げる空間がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者様同士の状態により、座席などを変更したりして、対応している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使いなれた家具を持参して頂いている	居室はベッド、タンス、家族の写真、ぬいぐるみなど置いてあるが、全体にスッキリとしていて個性的な部屋となっている。掃除がゆき届いて居心地の良い居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレなどわかるよう工夫をしている		

外部評価軽減要件確認票

事業所番号	グループホームかなれ
事業所名	2391500085

【重点項目への取組状況】

重点項目①	事業所と地域とのつきあい (外部評価項目：2)	評価
	町内会に加入しており、月1回の地域の廃品回収に協力したり回覧板も回って来る。散歩時に積極的に挨拶や話をしたり、近隣の人からは花や野菜の差し入れがあったり、雪かきを手伝ってもらったりしている。中学生の職場体験学習ではかなれ中学から女子生徒が訪れ、利用者の喜ぶ表情が見られた。また、ボランティアは現在の落語に加え、新たに大正琴が増える予定である。	○
重点項目②	運営推進会議を活かした取組み (外部評価項目：3)	評価
	自治会長・提携医療機関相談員・利用者家族・ホーム職員等の参加で2ヵ月ごとに開催されている。ホームの活動報告をする他、様々な意見交換の場となっている。また、8月には提携医療機関の看護師長が職員を集めC型肝炎について説明したり、事例検討を含めた勉強の場ともなっており、それらの内容は職員間で共有し日々の業務に繋げるよう心掛けている。	○
重点項目③	市町村との連携 (外部評価項目：4)	評価
	いきいき支援センターとは定期的に空き状況の確認・報告をしており、現在入居中の利用者の紹介もあった。年に数回催される事業所連絡会や他区にはなるが認知症研究会に参加し、勉強・交流の機会としている。また、名古屋市の実践者研修も受講している。	○
重点項目④	運営に関する利用者、家族等意見の反映 (外部評価項目：6)	評価
	利用者一人ひとりの状況・様子を伝える手段として、月1回請求書送付の際に、行事の時の写真を含め手紙にして添えている。面会時やケアプラン作成時に出された意見・要望は職員間で話し合い共有した上で日々のケアに反映させるように努めている。	○
重点項目⑤	その他軽減措置要件	評価
	○「自己評価及び外部評価」及び「目標達成計画」を市町村に提出している。	○
	○運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されている。	○
	○運営推進会議に市町村職員等が必ず出席している。	×
総合評価		×

【過去の軽減要件確認状況】

実施年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
総合評価	×	×	×	×	×	

1. 外部評価軽減要件

- ① 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」及び「2 目標達成計画」を市町村に提出していること。
- ② 運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されていること。
- ③ 運営推進会議に、事業所の存する市町村職員又は地域包括支援センターの職員が必ず出席していること。
- ④ 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」のうち、外部評価項目の2、3、4、6の実践状況 (外部評価) が適切であること。

2. 外部評価軽減要件④における県の考え方について

外部評価項目2、3、4については1つ以上、外部評価項目6については2つ以上の取り組みがなされ、その事実が確認 (記録、写真等) できること。

外部評価項目	確認事項
2. 事業所と地域のつきあい	(例示) ① 自治会、老人クラブ、婦人会、子ども会、保育園、幼稚園、小学校、消防団などの地域に密着した団体との交流会を実施している。 ② 地域住民を対象とした講習会を開催若しくはその講習会の講師を派遣し、認知症への理解を深めてもらう活動を行っている。
3. 運営推進会議を活かした取組み	(例示) ① 運営基準第85条の規定どおりに運用されている。 ② 運営推進会議で出された意見等について、実現に向けた取り組みを行っている。
4. 市町村との連携	(例示) ① 運営推進会議以外に定期的な情報交換等を行っている。 ② 市町村主催のイベント、又は、介護関係の講習会等に参画している。
6. 運営に関する利用者、家族等意見の反映	(例示) ① 家族会を定期的 (年2回以上) に開催している。 ② 利用者若しくは家族の苦情、要望等を施設として受け止める仕組みがあり、その改善等に努めている。 ③ 家族向けのホーム便り等が定期的 (年2回以上) に発行されている。

(注) 要件の確認については、地域密着型サービス外部評価機関の外部評価員が事実確認を行う。